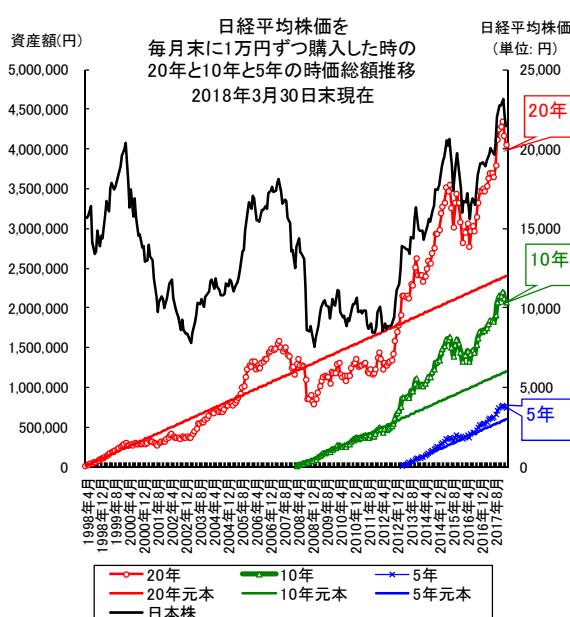


投信の積立を始める若年層が増えていると言われるなか、長期の積立投資は？

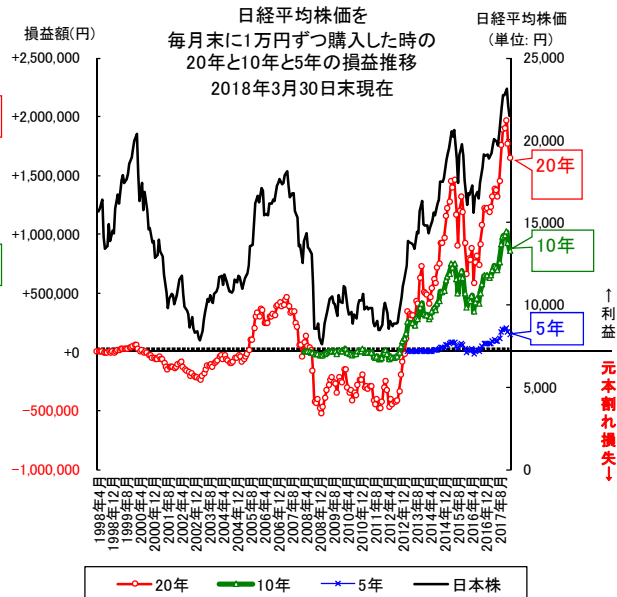
新年度入りして新しく積み立て投資をする人や検討中の人かもしれない。2018年4月13日付日本経済新聞朝刊は、「投信残高、110兆円で最高」という見出しで「世界的な株高も追い風となり、老後の資産形成のために投信の積み立てを始める若年層が増えている。」(URLは後述[参考ホームページ]①)と報じていた。投信の積立投資であり、2018年1月から始まった「つみたてNISA(少額投資非課税制度)」は最長20年間の投資が可能だが、実際、長期の積み立て投資は、どうなのだろうか？「つみたてNISAで購入できる投資信託について、過去5年間に積立投資した場合の運用益をランキングしたところ、上位10本はすべて国内株式に投資するタイプだった。」(2018年4月12日付日本経済新聞夕刊～URLは後述[参考ホームページ]②)等と、5年前から積み立てた場合では、つみたてNISAで購入できる商品の中で日本株が最もリターンが良かったようである。

実際、日本株は、2018年3月、NISAで投信を購入する投資家に最も人気だった(2018年4月9日付日本版ISAの道 その218 参照～URLは後述[参考ホームページ]③)。ただ、日経平均株価は、2018年1月23日に24124.15円と1991年11月14日以来26年2カ月ぶりの高値を更新したが、米景気や政治情勢への警戒感などから3月23日に前日比-4.51%の20617.86円と2月6日(-4.73%)以来の大きな下落率で、2017年10月3日来5カ月半ぶり安値を付け、その後は反発、4月11日には21794.32円と3月15日来高値まで戻している。このようなボラタイルな相場展開の中でも、長期の積立投資は有効なのだろうか？それを以降で検証する。

下記は、20年前から毎月1万円、日経平均株価の積立投資をしていたら、どうなったかを示すものだ(5年・10年付き。左が時価総額、右が損益推移)。いずれの投資期間でも2018年3月末時点で、投資元本を上回る利益となっていたが、リーマン・ショック(2008年9月)から2012年頃は元本割れすることも多かった。



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

20年間で元本は240万円、時価総額は約405万円、つまり損益は+165万円。前述したように2018年2月や3月の急落を受けて、利益は減少したが、それでも7割弱のもうけを手に入れた事となる(*手数料等は無視)。

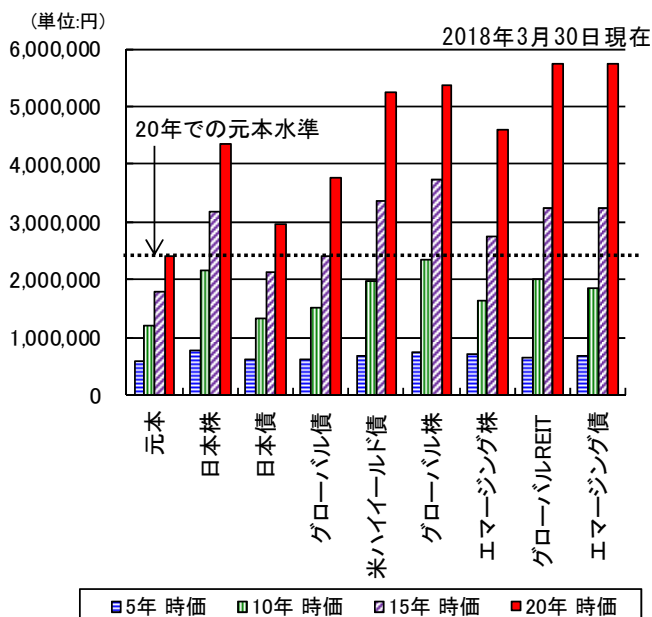
日経平均株価は225銘柄から構成されており、かなり分散されていると言える。だが、日経平均株価以外、同じ日本株でも機関投資家がベンチマークとしている事も多いTOPIX/東証株価指数(2018年4月12日現在2059銘柄)ではどうだろうか。つみたてNISAの対象商品である外国株に投資する投信、グローバル株についても知りたい(後述※1)。さらに、一般NISAを選択すれば投信積立で投資可能な日本債やグローバル債、米ハイイールド債やエマージング株やグローバルREIT、エマージング債などではどうだろうか。

加えて、「**資産の成長は、投資の時期に大きく左右されます**」(2018年3月3日付朝日新聞朝刊~URLは後述[参考ホームページ]④)と言われるように、時期の分散を検証してみたい。以下ではそのあたりも配慮し、投信に使われることの多いベンチマークを過去にわたり検証し、積立投資のリターン/リスクおよび積立の有効性を、多様な地域・資産・期間で見るとする。

2018年3月末までいずれの期間も利益となり、20年でリターンが2倍超の資産も

まず、2018年3月末時点で、5年・10年・15年・20年間、1万円を毎月投資し続けた積立の検証結果から見る。下記グラフの左が時価、右が損益(*手数料等は無視)。4月から積み立てを始めて5年、10年、15年、20年続けた結果は、いずれの期間でも利益となり、特に20年の投資期間では、資産によっては、元本の2倍超のリターンとなった。

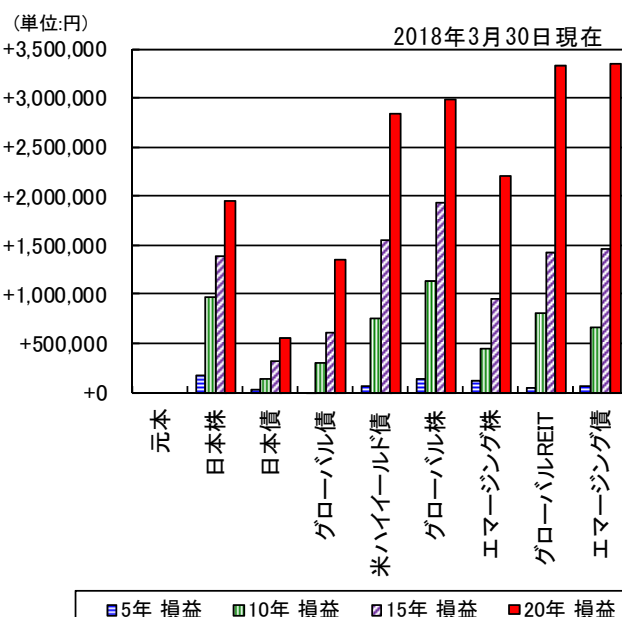
2018年3月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **時価** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

投資期間 5年・10年・15年・20年

2018年3月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **損益** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

より詳しく見ると、**5年では日本株(次いでグローバル株)のリターンが最も良かった。10年ではグローバル株(次いで日本株)、15年でもグローバル株(次いで米ハイイールド債)、20年ではエマージング債(次いでグローバルREIT)のリターンが最も良かった。実際、昨年2017年のNISA投資では、投信への投資(積立含む)を行って**

る投資家にグローバル株ファンドが最も人気だった事から、これまでにについてはグローバル株投資は有効な投資だったと言える(2018年1月15日付日本版ISAの道 その210 参照～URLは後述[参考ホームページ]⑤)。

上記グラフで目立つのが投資期間20年である。2018年3月末まで20年積立投資を続けた場合、グローバル株のリターンも良かったが、エマージング債やグローバルREITはグローバル株以上に良かった。**元本に対する時価の大きい順に、エマージング債とグローバルREIT(約2.4倍)、グローバル株と米ハイイールド債(約2.2倍)となっており、平均が約2.0倍で、エマージング株(約1.9倍)、日本株(約1.8倍)となっている。**

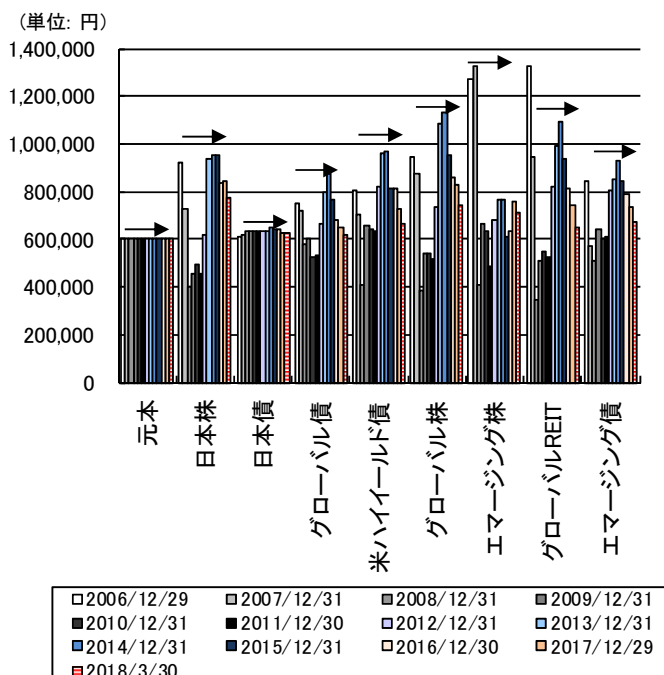
2018年3月末時点以外、積立の終了時期を変えて検証する

ここで積立の終了時期を変えて検証する。積立投資は「出口」、つまり、いつ終わるかがとても重要となる。20年間の積立投資で元本の**「成長が最小だったのは、1989年にスタートしたケース。積み立てを終えたのが2008年のリーマン・ショック直後で、株価の大暴落と急速な円高が起きた最悪のタイミングで換金したためです。」**(2018年3月3日付朝日新聞朝刊～URLは後述[参考ホームページ]④)、「**積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」**(2016年1月4日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]⑥)と言われている。

積立は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるものの、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(*積立期間中に市場価額が上下して平均投資単価が時価を上回るリスクもある)。20年の積立投資を目指して始め、期間の途中でリターンが2倍になったとしても、投資の終了時期によっては、元本を下回りマイナスとなる場合もある。そこで終了時期の検証をする。2006年～2017年の各年末と2018年3月末までを検証した結果である。まずは投資期間5年である。

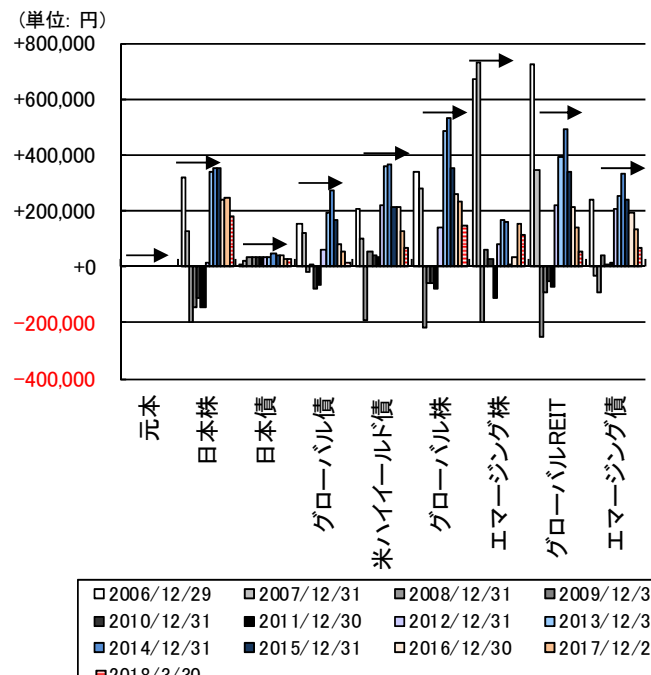
投資期間5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **時価**
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **損益**
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

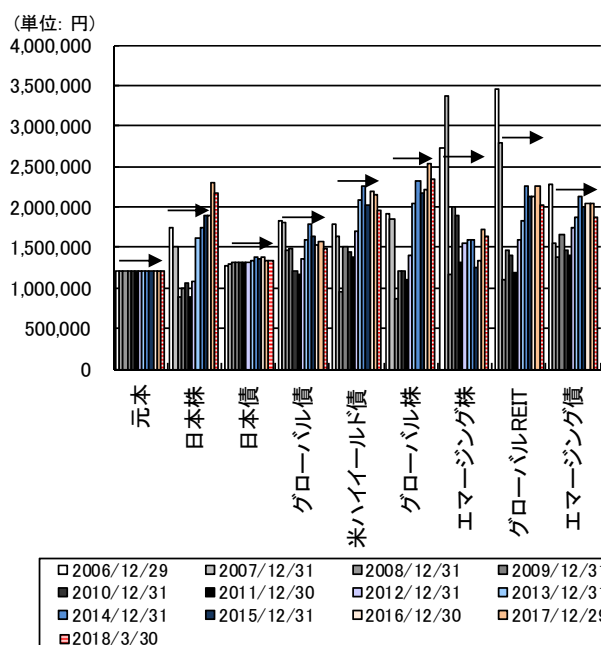
前頁グラフを見ると、グローバル REIT・グローバル株・日本株はリーマン・ショック(2008年9月)後 2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が拡大している。エマージング債は2007年末と2008年末で損失、米ハイールド債は2008年末に損失となっている。

次いで投資期間10年である。下記グラフの通り、投資期間5年に比べ総じて黒字化している。グローバル REITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング債は5年では損失の時もあったが、10年ではどの時点でも利益となっている。グローバル債は5年で2008年末・2010年末・2011年末いずれも損失だったが、10年では2011年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、投資期間5年より損失年が増えている。

投資期間10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

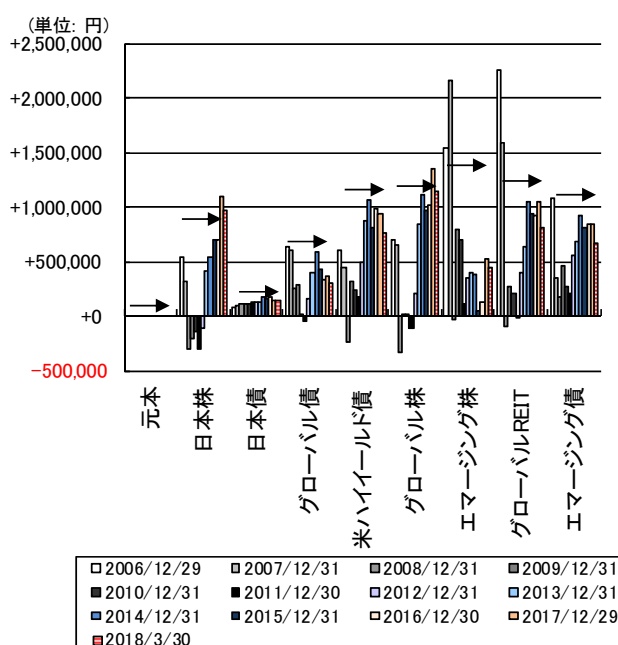
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



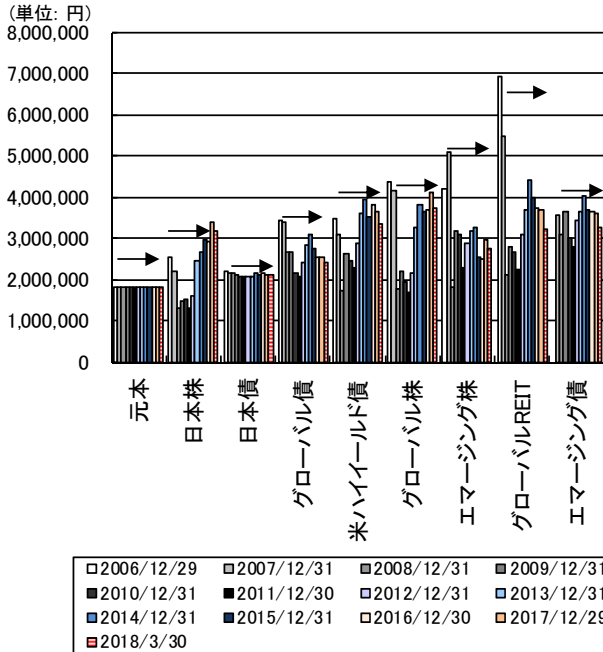
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

そして投資期間15年・20年である(次頁参照)。10年と比べ、黒字化する傾向がより鮮明となる。大半がいずれの時点でも利益、もしくは、見えないくらいの損失にとどまる。日本株は2013年に黒字化した。この様にリーマン・ショック(2008年9月)の様な相場暴落の中でも、より長期の積立投資では良好な結果になっている。

投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

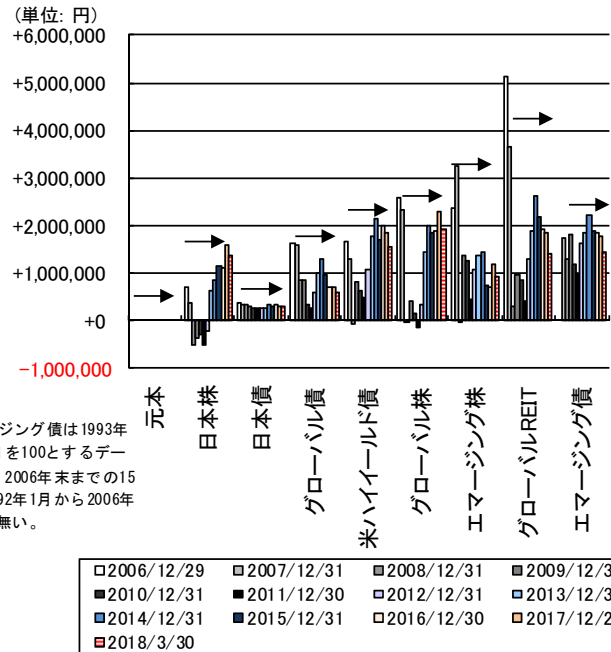
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。

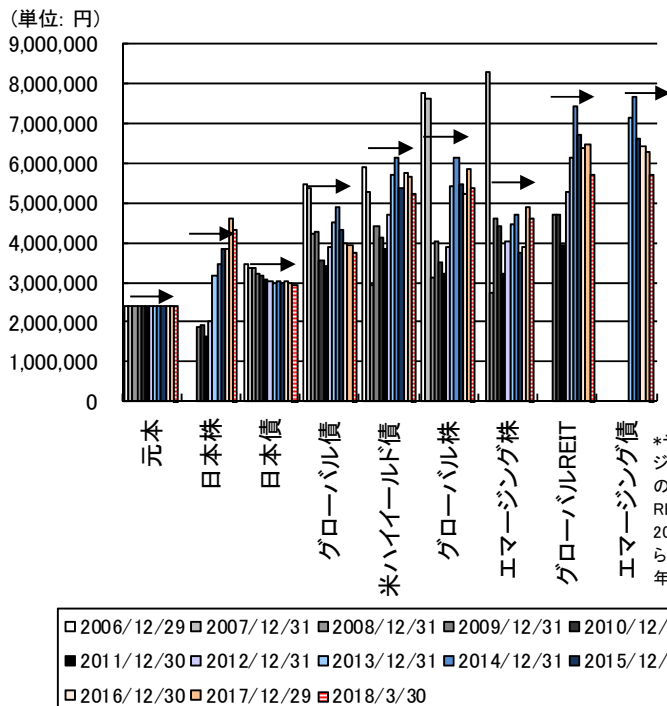


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

投資期間 20年

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 時価

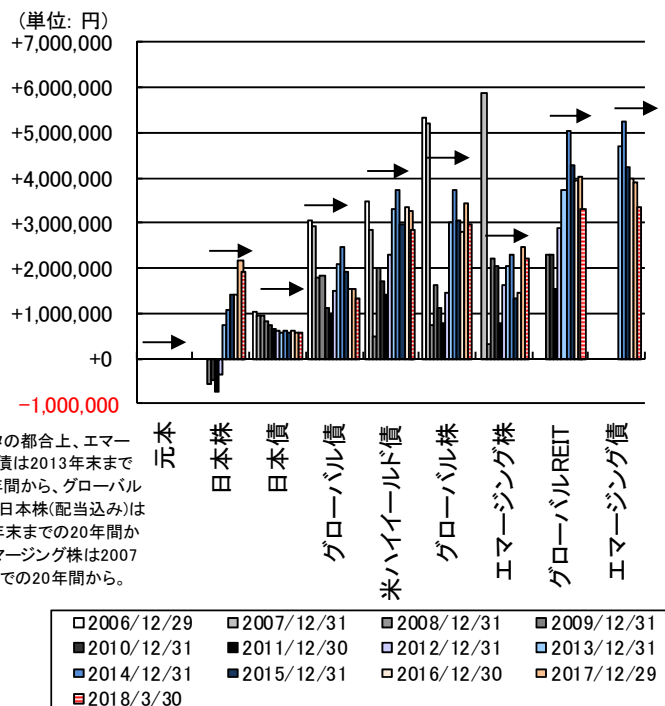
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

尚、積立投資と共に金融庁がその効果を強調している(資産の)分散投資、バランス型ファンドは、以上の検証の組み合わせに近い、もしくは、ベンチマーク間の「負の相関」があれば、よりリスクを低めてくれ損失をもっと少なく出来る可能性もあろう。20年でも終了時によっては損失となった日本株についても先の資産との分散をすることなどでつみたてNISA(あるいは一般NISA)の投資対象として組み込む意味は十分あると思われる。

以上、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、つみたてNISA、iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金、そして一般NISA(成人NISA)、ジュニアNISA、職場積立NISAといった節税出来る金融商品を使い、日本株も含め多様な選択肢から投資をして資産形成の一助にしてほしいものである。

※1: つみたてNISAの対象商品…つみたてNISAで投資できる商品は、金融庁が承認した投資信託に限られる。具体的には、販売手数料が無料(0%)、信託報酬が最大で1.5%以下などの金融庁が示す要件を満たす投資信託。2016年11月末時点で、要件に該当する投資信託は約50本と、公募投信(約5000本)のわずか1%だったが、2017年7月末には120本に増加(事前相談数)。正式な届出の初日2017年10月2日時点で公募投信103本、最新2018年4月3日時点では公募投信143本、ETF3本である(うち指定インデックス投信128本、アクティブ運用投信等15本)。以上、金融庁が示す要件や個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁HP参照(URLは後述[参考ホームページ]⑦参照)。また、2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」、2017年9月11日付日本版ISAの道その195「『つみたてNISA対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!!」その中、現行NISAで8月に投資された先は?も参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑧参照)。

以 上

[参考ホームページ]

①2018年4月13日付日本経済新聞朝刊「投信残高、110兆円で最高」…

「<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO29318350S8A410C1MM8000/>」、

②2018年4月12日付日本経済新聞夕刊「つみたてNISA開始3カ月 5年運用益、国内株型が上位」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGKKZO29295010S8A410C1ENI000?type=my#AAAUAgAAMA>」、

③2018年4月9日付日本版ISAの道その218「新規設定の5年ぶり低水準は、つみたてNISAやiDecoによる顧客本位の表れ? 3月は日本株とグローバル株、そしてアセットアロケーション柔軟型が人気」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180409.pdf」、

④2018年3月3日付朝日新聞朝刊「(知りたい投信 なるほどリッパー)長期投資のすすめ:4 「20年で2倍」がひとつの目安」…「<http://www.asahi.com/business/stock/toshin/SDI201803054295.html>」、

⑤2018年1月15日付日本版ISAの道その210「『つみたてNISA』が本格スタート! 申込25万件!!NISA導入以来で最大の純流入となった新規投資家(NISA向けファンド)で12月はグローバル株やエマージング株、アセットアロケーションが人気!!!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180115.pdf」、

⑥2016年1月4日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は10年続けよ『勝率』は9割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…「http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney_tokushu.aspx?g=DGXMZO9423455020112015000000」、

⑦金融庁「つみたてNISA対象商品届出一覧」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、「対象商品の要件についての告示」…「<http://www.fsa.go.jp/common/law/kokuji/20170331nai540.pdf>」、

⑧2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、2017年9月11日付日本版ISAの道 その195「『つみたてNISA 対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行NISAで8月に投資された先は?」…「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170911.pdf」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am-mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・日経平均株価に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は本商品を保証するものではなく、本商品について一切の責任を負いません。